

市内女性

「災害に強いまちづくり」

中町

Q： 人口が密集している地区に大勢の人々が避難できる公園を防災公園にしてほしい。東海地震のことを知らせてほしい。「単独で来ることは可能性が少ない」「東南海地震との関連」などを説いている学者もいるが情報を市民が知らない。津波時に2～3分で避難できる施設（一般住宅を3階建てにして屋上を避難施設として使わせてくれたら補助する、企業に対して条例で近隣住民が避難できる屋外階段をつけてもらうなど）への施策を講じてくれないか。

A： 公園は避難所として位置づけている。必要なところもあると思う。共助の支援、公助を補うことにもつながる。前向きに考えていきたい。情報提供と同時に、市民への広報や情報伝達をわかりやすく迅速にできるよう訓練を充実させたい。津波対策は8割あれば大丈夫といわれているが港の防潮堤もない。企業にも協力してもらいたいが、高い建屋がない。果たして大丈夫なのか。一般住宅や企業の建物を利用した海側への避難よりも関係機関へ呼びかけて防潮堤の整備を働きかけたい。津波訓練も充実させたい。

上岬区

Q： 平成16年の台風のときどこへ連絡していいのかわからなかった。老人世帯が増えてきて市役所の電話番号がいざというときわからない。「もしものときは」として市役所と支所だけでも電話番号を大きな字でわかりやすく書いて掲示できるようなものを配ってほしい。

A： 前向きに対応していきたい。ただ、職員も被災しないよう注意してはいるものの緊急時に確実に出勤できるかは断言できない。電話をいただいても被災状況により対応できないこともあることは心得てほしい。

「子育て支援」

中町

Q： 市内には子どもを安心して産める開業医もいないし、病院にもない。今後どうだ。

A： 平成15年に産科医が引き揚げた。産科医は最低2人以上いないと実情は困難だ。今のところ見通しは立たない。菊川にも2人しかいない。全国的にも産科医は増えていないが女医の割合が増えている状況。

「フリーテーマ」

中町

Q：10月からレジ袋が有料となったが市の公用車をエコカーにしていくことは考えているか。また、市役所の冷暖房設備を各課、各階で調整できるようにすれば省エネにつながるのではないか。

A：目的によって買い替え時期が来たらハイブリットカーや軽自動車に対応できるものは換えていきたい。市役所の空調設備も現状は温度設定が困難で、各フロアごとの起動をなっているが、かなり故障も多い。今後の検討課題としたい。

中町

Q：御前崎市も牧之原市のホームページのようにバナー広告を入れることは考えているか。

A：今のところ考えていないが、要望があれば実施できるだろう。

上朝比奈

Q：薬を常用している高齢者が被災したとき服用している薬の情報があれば近所などでも役に立つと思うがどうか。

病院に救急車で搬送されるときに救急隊が病院に連絡して「カルテがあるかどうかわからない」といわれた。カルテがないと初診のようになってしまって手間がかかるのか。またカルテの保存年限は？

メタボリックでウエストサイズが注目されているがやせている人でも予備軍がいると思うが見解はどうか。

A：高齢の人は「薬手帳」を持っている。しかもかなり高確率でもっている。若い人ほどもっていない。嫌がる。万一困れば請求してほしい。災害弱者には、災害時避難支援計画をつくった。その中に個別計画があって要介護度3以上、療育手帳A障害者手帳1.2級の人には個人情報をも民生委員・自主防災・消防関係者などに封印して渡してある。

市民のカルテは必ずある。ただ2年3年罹ってない人は、探すのに時間がかかる。カルテがあれば、一から聞く必要がなくなるし過去の病状など情報が豊富なため対応が早い。当然なくても来ていただければかまわない。カルテは人海戦術で探すため事前に名前を言っていただければ早く探すこともできる。

女性は皮下脂肪がつきやすいが、内臓脂肪はつきにくい。内臓脂肪がつきやすいのは男性だ。メタボリック、特定健診のターゲットは中高年の男性だ。本来、メタボリックよりもタバコを吸うとか糖尿病があるとか高血圧などが怖い。メタボリック

の症状がやがて高血圧やコレステロールなどと結びついて心筋梗塞の原因になりやすいくということ。もともとの危険因子を持っている人はメタボと関係なく存在する。

高松

Q：娘が自閉症という障害を持っている。小学生頃からいじめられてきた。中学になって教科ごとに教師も変わる。見えないところでいじめがある。障害者のことを知ってもらいたいというのが願い。健常者との隔たりを無くしていくよう、障害の理解を推進してほしい。

A：障害を一般健常者が正しく理解し、偏見や差別などの2次的障害につながらないように認識を深めることが大切だ。学習障害（LD）や注意欠陥・多動性障害（ADHD）などの発達性障害が文部科学省の発表では各クラスに6.3%程度いるといわれている。市内でも同程度、各クラスに2～3人はいると認識している。現在市では3年間で発達障害の知識と技能を身につけて正しく理解しようと直接関わる教員や市職員ら全員が2日間の研修を行っている。今年で2年目。エジソンや織田信長なども発達障害を持っていたといわれている。個性は育ててやればすばらしく伸びる可能性を秘めている。発達障害を個性と捉えて「個性伸張支援教育」として真摯に向き合っていく。